

適正施設ガイドライン

【エゾトミヨ *Pungitius tymensis*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 水温

外気温に準じる形で飼育は可能であるが、水温が 15 度以上になる場合は室内にクーラーを設置または水槽用クーラーを装備する必要がある。

- 1) 未成魚・成魚
室温飼育 (5~10°C (冬) 10~15°C (夏))
- 2) 仔稚魚
室温飼育 (7~15°C)

1-2 設置場所

水槽前に頻繁に人が行きかう場合は、魚が落ち着かないため隠れ家を設置することが必要である。また、繁殖を行う場合は、隔離場所または水槽に目隠しを施すなどの工夫が必要である。

1-3 照明 (日照、人工照明、照明時間長)

照明時間は夏と冬で自然日長にあわせるとよい。照明は自然光、人工照明 (蛍光灯、LED 灯、ハロゲン灯など) のどちらでも良いが、自然日長および自然な水温変化の方が繁殖 (成熟) には適している。

1-4 水槽サイズ (面積、容積)

親魚のみであるならば 60 cm 水槽 (60×30×35 cm、容量 63ℓ) で 20 個体程度可能であるが、本種は神経質な面があるため、人間が見えないよう水草を多く入れるなどの工夫が必要である。また、成熟したオス個体が出た時は縄張り争いを避けるため、飼育密度を下げる必要がある。

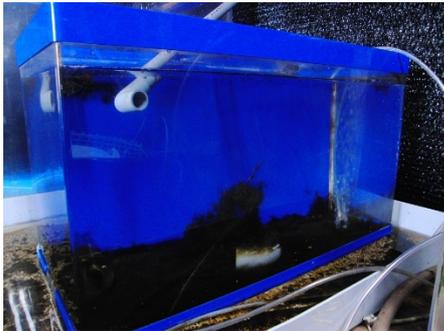


写真 1 飼育水槽

1-5 構造、設備、水槽の数

底面濾過方式で底床に川砂が理想である。(底床なしでも可能)

シェルターにはカモンバ、ウィロモスなどの水草を使用する。

飼育のみであれば 1 槽で飼育可能である。

1-6 飼育水 (水質)

河川水や地下水など淡水魚の飼育水として実績のある天然水、または塩素を中和した水道水でも可能である。